



Title	伝統産業の技を今日の製品開発に活かす
Author(s)	塚田, 章
Citation	デザイン理論. 2017, 69, p. 90-91
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/65035
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

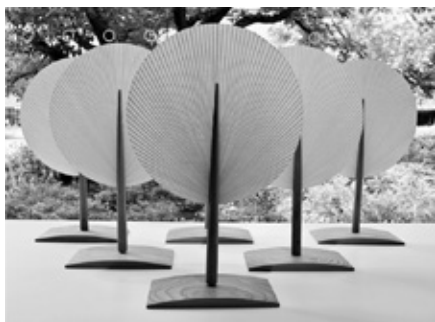
伝統産業の技を今日の製品開発に活かす

塚田 章／京都市立芸術大学美術学部

京都市立芸術大学美術研究科博士（後期）課程には産業工芸・意匠という研究領域が設けられている。「地域特有の産業活動にふさわしい形態デザイン，装飾デザインの実技と理論を研究します。伝統的な工芸意匠，加飾などデザインの研究とその応用化，産業化についての検証を行い，京都デザイン，日本のデザインなど工芸意匠の創造的研究を行う」という趣旨で設立され，この研究領域を担当している。また，プロダクト・デザイン領域に於いても京都の伝統産業に関わった研究を実施している。京都市では産業観光局商工部伝統産業課が伝統産業（工芸・染織）の振興，関係団体の指導・助成，産業デザインに関する活動を行っている。また京都府でも商工労働観光部染織・工芸課及び中小企業技術センターが同様の活動を行っており，そうした機関からの依頼で実施した事例を紹介したい。

■ 京団扇のデザイン開発

京団扇の新しいイメージを求められ研究開発を実施。直裁な柄の構造に見合った骨材の新しい配置を提案。日常で使い易い様に台に立てて飾れる様にデザインされた。



■ 花屏風のデザイン開発

茶道で用いられている花器，“花屏風”をベースに今日の生活で使い易い様にデザインしたもの。



■ 玉磁の開発研究

ルビー，サファイア等の宝石は酸化アルミニウムという物質であり，今日では焼成する事で人造する事が出来る。陶磁器と似た製造ではあるが，極めて固く上絵を乗せても定着し難いと言う問題が在り，新たな発想での商品化が求められ漆の様に象嵌する技法が試みられ，実施された。



■ 源氏香図パターン・ジェネレータ

香道で用いられる源氏香図という香の組み合わせを表す図形はシンプルで美しい。本研究では52通りあるパターンを簡単に表示出来るパターン・ジェネレータの研究を実施。下記のものはプレートを回転させパターンを造るもの。



組紐での展開事例。



■ モバイル茶室“洛竹庵”

京都の指物職人に依頼して制作した二畳の茶室。主素材は竹を用いていて桂離宮等に材料を納めている竹材店より調達。45分以内で設置、撤収が可能。



伝統工芸品というと既に確立された技があり、守り伝えられた技を前提に制作するというイメージが生じるが、過去の時代では工学・科学技術にも及ぶ最先端のものであり、扱える素材も最先端のものであった。

「京都迎賓館では、通常の技能の範囲を超えた多くの新しい試みが行われましたが、伝統的技能は保存できるものではなく、活用し続けることでのみ継承されていくものです。新しい時代に、更に技能が継承されることが期待されています。」これは京都迎賓館の設計・発注・施工管理に関わった日建設計の「日建設計 115年の生命誌」という広報誌からの引用であるが、伝統を守り伝えると言う事は常に時代に沿って革新を重ねる事が重要であることが分かる。

今日の新しい技術を積極的に活用する事による伝統文化の継承がテーマであると思う。